

昨年の暮れに公開されたドラマ「南極大陸」の中で、国際地球観測年、南極分科会から南極観測のために日本に割り当てられた基地設営場所がオングル島プリンスハラルド海岸で、厚い氷に閉ざされた「接岸不可能」な地域 “Inaccessible” であることが判明し、隊員たちが右往左往する様子が描かれていた。

一方、北極海航路も前世紀までは正に厚い氷に覆われ、砕氷船以外は「接近不可能」だった。が、近年の全地球規模の温暖化の結果、海氷の範囲縮小と氷結期間の減少により、夏季2ヶ月間は航路として開通するようになった。

色めき立ったのは北極評議会の参加国だ。なぜなら同評議会が本部を置くノルウェーの試算によれば、北極圏には天然ガスや鉱物など多くの埋蔵資源があり、そのうちの石油だけでも900兆ドル（7京円）という。すでにノルウェーの専門家らは、海洋法に基づき「権利の大部分を主張できるのはロシア、ノルウェー、カナダ、デンマーク、米国の5か国だけだ」などと主張し始めた。北極海に面した海岸線を持つこの5か国は、排他的経済水域の200カイリ内に北極圏の海底資源があるからだ。

これらの動きを見て我々人間と神との関係を思い出す。実は人間は神に近づくことは出来ない。もしそうすれば我々は死ぬ。なぜなら我々には罪があるので“聖・Holy”である神は“接近不可能・Inaccessible”な存在なのだ。しかし聖書は言う。

**「私たちはイエスの血によって、はばかりことなく聖所に入ることが出来、彼の肉体なる幕を通り、私たちのために開いて下さった新しい生きた道をと通って、入って行くことが出来る。」**ヘブル 10章 19-20節：口語訳

と。つまりキリストの死による身代わりによって“神への航路”が開通したのだ。ここを通過して祝福を得よう。

